

コロンビア地區  
ワシントン市 SS

## 宣誓供述書

余、アメリカ合衆國豫備海軍中佐、認識番號第  
五六一三五號、ハーバート M. ハート（Herbert M. Hart）ハ先づ  
法律ニ従ヒ宣誓シタル後、如ク供述スル。

余ハ「コロンビア」地已「ワシントン」海軍省海軍法務局  
長ノモトニ現役勤務中デアル。

余ハ「コロンビア」地已「ワシントン」國家戦犯部ト艦船局及  
海軍作戦局ヲ含ム多数海軍省各局トノ間ノ連絡將校デ  
アル。右ノ内海軍作戦局ハ海軍情報部ヲ包含スルデアル。右  
連絡將校トシテ余ハ公的資格ニ於テ余ハ日本東京、連合軍  
最高指揮官、總司令部、極東國際軍事裁判所、國際  
檢察部ヨリ極東國際軍事裁判所ニ既ニ證據トシテ  
受理サレアル或種ノ書類及以下ニ挙ゲシタル他ノ書類ヲ  
審査シ且右凡テノ書類ニ記載サレタル事柄ニ関スル公的情報  
ヲ「アメリカ合衆國海軍」ヲ入キスルヨリ要求セリ。前記要求  
ニ従ヒ余ハ A 表、B 表及 C 表トシテ以下ニ引用セシタル或種ノ  
書類ヲ作成スルニ当リ「アメリカ合衆國海軍省」内各種ノ官  
憲ノ意見ヲ徴シ且「コロンビア」地已「ワシントン」海軍省  
艦船局、艦船統計課擔任ノ生産分析者「アルバート B.  
レイ」氏（Mr. Albert B. Ray）ト共ニ働イタ。

余ハ公的資格ニ於テ余ハ右「レイ」氏（Ray）氏、既ニ作成セシタ

ノ書類ヲ審査シテ右ノ内一八九四七年一月二十三日附テア  
辯護側書類第五九六號トシテ提出セシ法廷書證第三〇〇一  
號トシテ證據トシテ受理セラル。他ノ書類一八九四年四月三日附テア  
辯護側書類第五九七號トシテ提出セシ法廷書證第  
三〇〇二號トシテ證據トシテ受理セラル。余ハ「アメリカ合衆國海軍  
ニヨリ使用サレ且前述法廷書證第三〇〇二號及第三〇〇三號ニ於テ  
引用セラレタリ用テ定義ヲ十分ニ就知セリ居ル。

余ハ又一九四四年十月七日現在米日海軍保有艦艇比較表  
ト題スル辯護側書類第五七二號トシテ提出セシ法廷書  
證第三〇〇三號トシテ證據トシテ受理セラル書類ヲ審査  
シタ。余ハ又一九四四年十月七日現在建造中ノ米日艦艇比較  
表ト題スル辯護側書類第五七三號トシテ提出セシ法廷書證  
第三〇〇三號トシテ證據トシテ受理セラル書類ヲ審査シタ。余  
ハ又一九四七年八月十五日附テア辯護側書類第二〇八五號ト  
シテ提出セシ法廷書證第三〇〇三號トシテ證據トシテ受理サ  
レタ。吉田英三ノ宣誓供述書ヲ審査シタ。余ハ又一九四七年八月二十  
二、二十三兩日附國國際軍事裁判速記録二六六〇頁乃至二六六  
五頁ヲ審査シタ。

更ニ進ミテ余ハ一九四七年五月一日附吉田英三ノ依リ署名セラル  
ル書證第三〇〇三號A及第三〇〇三號Bノ證明書ヲ審査シタ。其  
ノ證明書ノ何レモ、以下ノ陳述カナサレタ。即チ「アメリカ合衆  
國艦艇及噸數ノ資料ハ「ゴロンビ」地、ワシントン、「アチカ」合衆  
國海軍省ノ認證記録ヲ採リタ。余ハ上記圖表カ眞實且正確  
ナルト更ニ證明ス。吉田氏ハ尚、前述證明書中ニ於テ引用



2

J.P.S. Doc. No. 3351

P. 3

サリ。書証第三〇〇三-A 號及第三〇〇三-B 號作成ニ依リ使用サレ  
「アメリカ合衆國海軍」資料ハ「アメリカ合衆國海軍艦艇」關ス  
ル「アメリカ合衆國海軍」有、或一部公文書、...、カヲ採ルタニ  
シ書証第三〇〇三-A 號及本裁判所ニ於テ証言中(二六六六頁ニ  
於テ意味ヲ有ス。吉田氏ハ彼等が「アメリカ合衆國海  
軍」有、記録記録及「アメリカ合衆國海軍」有、公文書、本  
ヲ未明ニシテ、然レテ、若干、数字、類似、改テ以テ彼等  
ハ書証第三〇〇三-A 號及第三〇〇三-B 號ヲ未引用ニシテ、吉田氏  
又書証第三〇〇三-A 號及第三〇〇三-B 號ニ於テ「アメリカ合衆國海  
軍」資料ヲ提スニ依リ彼等ヨリ使用サレ、専門語、意義ヲ未  
証明書ヲ作成ス。此、証明書、一九四七年九月二十六日附テ、本  
書ニ添付サレタリ。

書証第三〇〇三-A 號及第三〇〇三-B 號ハ彼等比較表ニ添  
付サレ、吉田氏、証明書、彼等「アメリカ合衆國海軍」有、記録  
ヲ提スニシテト述ベタルニ、於テ正確ナシ、何故ハ、彼等  
「アメリカ合衆國海軍」資料、項目分類別ニ提スニシタルニ、  
「項目分類別」前記、書証第三〇〇三-A 號及第三〇〇三-B 號ニ於テ使  
用サ、且テ「アメリカ合衆國海軍」資料、項目、  
分類別ト異ナル、二書証及彼等陳述ヨリ明ナリ  
アリ。

「レイ」氏 (RAY) が用いた語の意味は、固より「レイ」の意味に古田氏が使用した語に次、その令に於いて、「保有量」、「建造中」、「其他」、「アタリカ」合衆國海軍直及「レイ」氏が書誌第三〇一号及第三〇二号を作成したる使用した如き語、定義を次の如くする。

保有量。「保有。艦艇上の艦艇所成の建造所より完成を以て海軍より引取らるるモノニシテ喪失又高價却せたる破壊せられたるモノ等或は其他の処分せられたるモノ等」此の艦艇表に或は艦隊勤務に編入せられたる若干の艦艇を含む。又艦隊勤務用ニシテある海軍に所属の艦艇及雑役船を含む。

建造中。「同建造中。艦艇上の海軍自らが建造或は買上二箇の二式、契約の書に於て或は契約より艦艇ニシテ海軍より引取らるるモノに於てある。此の契約中の艦艇ニシテ未だ海軍より引取らるるモノ又高價完了したる契約書或は教定書が準備せられたるモノを含む。艦艇の通常、基礎工事或は改造が完了し、政府供給治具材（機械、兵装）を附後ニシテ艦艇表に或は艦隊勤務に編入前ニ海軍より引取らる。又艦隊勤務用ニシテある海軍に所属の艦艇及雑役船を含む。

其他。「其他、艦艇（戦闘艦艇或は十艦艇）に分類せられ、總て、艦艇を含む」

一九四二年九月二十六日附古田大佐の説明書中に記載せられた日本海軍に於て使用した如き用語、定義は



J.P.S. Loc. No 3351

保有量 特定期日或ハ以前ニ完成シテ渡サシ艦船

ニ編入セ日本海軍、軍艦勤務ニ就クハ既ニ準備成  
タ艦艇ノ意味スルガリヌ。殆ド凡テノ場合一九四二年十二  
月七日「保有」艦艇ハ既ニ就役ニタテアリヌ。

建造中。新造艦艇ノ場合ニハ特定期日或ハ以前、以  
前ニ艦艇改造ノ作業ヲ始メト即チ改造又ハ改装が始  
マラコトヲ意味スルガリヌ。

其他「主力艦、航空母艦、巡洋艦、駆逐艦、潜水艦、  
除艦、掃雷艦、ミサイル艇、その他」以下ノ型  
ノ艦艇ヲ成リ立テ居リコシタ即チ水上機母艦、潜水母艦、  
水雷敷設艦、掃海艇、海防艦、水雷艇、砲艦、駆逐艇、  
哨戒艇、海空連絡艇、輸送艇、及ヒ特務艇即チ軍用艇、  
貨物船、海軍補給船、水雷艇、標的艇、工作艇、給油  
船アリヌ。

書誌才三〇一年、及三三〇二年ノ上記ノ「ア」ハ、合衆國  
海軍省ノ宣義ニ依リ一九四二年十二月七日現在「ア」ハ、合  
衆國海軍ノ情勢ヲ示ス。

一九四二年十二月十一日附「前記「ア」ハ、B. RAY」(ALBERT B. RAY)  
氏ニヨリ証明セタ「ア」ハ「A表」「B表」「C表」ト記サシ  
附表ハ日本海軍ノ宣義ニ依リ

一九四二年十二月七日現在「ア」ハ、合衆國海軍ノ情勢ヲ示ス  
是等前記「A」「B」「C」諸表ハ全部日本海軍ノ宣義ヲ  
使用シ「ア」ハ海軍「ア」ハ合衆國海軍、日本海軍ト「ア」

P.5





J.P.S. doc. No. 3351

P.7

一九四一年十二月七日に「アメリカ」合衆國の艦六隻、斯  
格ニ完成し、艦隊ニ配属せし航空母艦多し  
多し其、航空母艦：大西洋艦隊「ラングラー」(RANGER)  
「ヨークタウン」(YORKTOWN) 「ワスプ」(WASP) 及太平洋  
艦隊「サラトガ」(SARATOGA) 「レキシントン」(LEXINGTON)  
「エンタープライズ」(ENTERPRISE) 等、海軍情報部記録  
作成せし別紙、海軍文庫第九号、是等、合計ヲ記  
スル航空母艦「ホーネット」(HORNET) 一九四一年十月二  
十日「就役」シタルモノ一九四一年十二月二十三日(日本、空  
母翔鳳が日本側、言フ意味ヲ「就役」(書誌第九(全))  
即チ砲彈庫、航空機及乗組員ヲ必要トサレタル如ク整  
備シ、戦闘勤務ニ就クベク準備ガタル(土田、説明書  
第四節より引用) 翌日) 迄、航空母艦ヲ搭載シタル  
モノヲ指摘スル。

(六頁)

J.P.S. doc. No. 3351

同海軍文書にC.V.E.護衛空母、ロング・アイランド、就役中  
テアウタガ、戦闘航空母艦トシテ分類サレヌト述ベキナル。  
事実同艦、戦闘航空母艦デハ無ク、戦争中終始航空  
機ノ輸送ニ使用サレタ。ソノ全航空機数ハV.E.戦闘機  
六機トV.S.O.偵察機一十機ヲツタ。前記ノ理由デ  
C.V.航空母艦、ホーネットトC.V.E.護衛空母、ロング・アイ  
ランドハ右A表ニ含メシメシ表ニ含メシテ可シ。約言スベクC.V.  
航空母艦、ホーネットモC.V.E.護衛空母、ロング・アイ  
ランドモ一九四一年十二月七日迄ハ、戦闘航空母艦トシテ吉  
田ノ証明書ノ用語ヲ用ツルハ、航空機及乗組員ヲ必  
要トサテナル如ク整備シテナカッタ。

- (3) 重巡洋艦ト軽巡洋艦、数ニハ変更ナシ。
- (4) アメリカ合衆國海軍、駆逐艦ト潜水艦、数ハ日本  
側合計額決定ニ降シ吉田氏ガ用ヒラト同意義ニスル  
為所要ノ箇所ニ於テハ減テシ。
- (5) 日本艦艇ハ其ノ他ノ型ハ吉田ノ表即チ書証第三。  
三-A号ヲ変更ヲ加ヘズ寫サレタモノナル。一九四七年九月  
二十六日附附屬證明書ニ於テ吉田ガ定義シタ其ノ他ノ  
ル語ハ米國艦艇ニモ適用サレ、此ノ為数字ハ表示、如ク変  
更サレタ。吉田氏ハ十七種ノ型ノ日本艦艇ヲ此ノ分類ニ入  
テ表ヲ作ツタ。レイ(カミ)氏ハ斯カニ型ノ米國艦艇、合計  
ヲ記入シタ。注目スベキハ日本海軍ハ其ノ他ノ十ル語ニ病院  
船、輸送船、海軍區所屬艦艇等ノ型ヲ含メタ。是等

P.8

6  
4



「レイ」(Ray) 氏は書証第三〇二号ニ於テ、通俗的、專門的、ハイイの意味ヲ用シテ「タル」其ノ他ナル項目ニ含ムコトヲ示シタル事ヲ示ス。

「一九四一年十二月」現在太平洋地域ニ於ケル艦隊(保有ノ米日海軍艦艇比較表)ト題スル右B表ニ於テハ、日本側合計額「レイ」(Ray) 氏が主目証第三〇三ニ「A」トシテ「変更」加ヘズ其ノ儘寫シタルアリ。然レ米國側合計額ハ海軍情報部作成ノ太平洋艦隊「アメリカ艦隊」(アメリカ合衆國海軍艦艇記録)ニ艦船局内「レイ」(Ray) 氏ノ事務所ノ噸数記録アリ、日本側合計額決定ニ際シ吉田氏を用ヒシト同意義ニ「保有量」ナル語ヲ用ヒテ「レイ」(Ray) 氏が算定シタルヲ示ス。

「一九四一年十二月七日現在米日海軍建造中艦艇比較表」ト題スル右C表ニ於テハ、日本側合計額ハ書証第三〇三「B」トシテ「レイ」(Ray) 氏が変更ヲ加ヘズ其ノ儘寫シタル。然レ「米國側合計額」上記「アメリカ合衆國海軍記録」ニ吉田氏ノ日本側合計額決定ノ際使用セル「建造中」ナル語ノ意義ニ改セシムル要アル為「レイ」(Ray) 氏が変更ヲ加ヘタ。建造中ナル語「レイ」(Ray) 氏ハ書証第三〇一ノ「子」ニ第三〇二号中ニ「艦艇」契約締結ノ日カラソノ引渡シノ日迄ヲ含ムモノトシテ用ヒタ。吉田氏ノ言フ所ニ依リハ同氏ハ此ノ言葉ヲ書証第三〇三「B」号中ニ「新造艦艇」龍骨据附ノ日又ハ改造艦艇改造(即チ

「改造又は改装」開始、日方艦艇が完成し建造者、艦長を通じて海軍大臣に引渡され、日迄、期間合、モノとして使用したと云ふ。

更に右に表に付述べしは、建造中、たゞ、日本式に使用せし結果を記し、変更を生じず。

(1) 戦艦 (変更なし) 合計十隻、之は一九四一年十二月七日以前に龍骨が据附けられたが同日以前に、戦闘勤務に就くべく準備、成、ラナカツタモノ、数ナシ。

(2) 航空母艦 合計十隻、之は一九四一年十二月七日以前に龍骨が据附けられたが同日以前に、戦闘勤務に就くべく準備、成、ニ至ラナカツタ (新造又は改装) モ、即チ、  
航空母艦「ホーネット」(HORNET)「エセックス」(ESSEX)「ヨークタウン」(YORK TOWN)「イントレピッド」(INTREPID)「レキシントン」(LEXINGTON)「バンカー・ヒル」(BANKER HILL)「インディペンデンス」(INDEPENDENCE)「プリンストン」(PRINCETON)「ベローウッド」(BELLEAU WOOD)及「カウペンズ」(COWPENS)ノ数ナシ。

(3) 大型巡洋艦、重巡洋艦、及軽巡洋艦ノ数、書證第三〇〇一号、第三〇〇二号及第三〇〇三-B号ノ舉が、それニ夫々三隻、八隻、三十一隻カ、吉田氏が日本側合計額決定、際使用セルモノト同意義をスルを、右に表ニテハ夫々〇隻、四隻、十八隻ニ減じナリ。

(4) 駆逐艦、潜水艦ノ数モ亦、書證第三〇〇一号、第三〇〇二号、第三〇〇三-B号ノ舉が、それニ夫々二〇六隻、九



54  
六隻カウ、吉田氏が日本側合計額決定、際使用セリモ、  
ト同意義義ニスル為、右に表ニ於テハ夫々八隻ト三隻  
ニ減ジラナリ。

ハーバート・M・ハート / 署名

コロンビア地区、華府ニ於テ一九四一年十二月二十九日、  
余、面前ニテ署名宣誓セリ。

米國海軍中佐

ジョセフ・O・コリンズ / 署名

J.P.S. Doc. No. 3351

P. 11

P.S. Del. No. 3351

P. 11

六隻カエ、吉田氏が日本創合計額決定、際使用セリモ、  
ト同意義スルを、右に表ニ於テ夫々八隻ト三隻  
ニ減ジラサレ。

ハーバート・M・ハート / 署名

コンゴヤ地区、華府ニ於テ一九四七年十二月二十九日、  
余、面前ニ子署名を宣誓セリ。

米國海軍中佐

ジョセフ・O・フリント / 署名



殖海日誌

丁巳仲夏 吳昌碩寫

10

11

922

1

1

1181

米註 1. CV「ホーネット」(F-4E)ハ一九四一年十月二十日就役ス。然レドCV「E-9」ト同ニ構成實テ有ニテ其示行隊ハ一九四一年三月三日ヲ被裁サレシメカ。

エ) CVE/護衛空母/「ロニクアイランド」(大西洋岸)に就役させ、下ツタカ。戦艦・航空母艦トミヲ区分サレナカッタ。同艦ハ戦争中、航空機輸送ニ用ヒラタ。同艦、航行機數ハVF/戦闘機+大機及USO/爆撃機+大機カラ成、テマ。

海軍文書第九九号  
原本